

## 城山1号古墳の人物埴輪

城山1号古墳の豪華な出土品は千葉県の有形文化財に指定され、香取市のみならず関東地方を代表する古墳として知られています。古墳の上には、円筒・人物・馬・犬・家などの埴輪が並んでいましたが、そのうち人物埴輪には、明らかに異なる2種類の作風が見られます。

左の写真は高さ71.3cmの男子半身像で、半円形の頭部に楕円形の装飾をつけた帯を巡らせ、左右のこめかみに扇形の板、その下に美豆良みずらと思われる髪と耳環みみわがあります。首には丸い粘土玉を貼り付けて首飾りを表現し、腰には大刀たちが付いています。この埴輪の大きな特徴は、色調が赤茶色で、両腕は小さく、両脚が省略されていることです。このような特徴を持つ埴輪は千葉県北部に分布し、下総型人物埴輪と呼ばれています。

これに対し、写真右の埴輪は基台と両脚が残るだけですが、色調は淡い褐色で、足の甲まで忠実に表現されています。現存する高さは71cmで、両脚の前面には脛当すねあてと思われる表現があり、三角形を連続させた文様を描いて、その

中を赤く塗っています。膝から上は残っていませんが、残っている両脚の大きさから推定すると、高さ1.5m以上の武人の全身像と思われます。

古墳時代の埴輪は、専門の工人集団がそれぞれの工房で制作していました。このような作風の違いは、作った工人集団の違いと解釈でき、城山1号古墳を造った際、古墳に並べる埴輪を複数の工房から調達したのでしょう。

埴輪は東日本大震災で破損しましたが、修復が終わったものから順次、市文化財保存館で展示しています。

図 生涯学習課 ☎(50)1224



城山1号古墳出土の人物埴輪